

## 2013 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 1 月 10 日作成)

|                              |   |                               |                               |
|------------------------------|---|-------------------------------|-------------------------------|
| 小委員会名                        | 雨水活用建築技術規準策定小委員会  |                               | 主 査 名：神谷 博<br>就任年月：2013 年 4 月 |
| 所属本委員会<br>(所属運営委員会)          | 環境工学委員会<br>(水環境運営委員会)   |                               | 委員長名：田辺 新一<br>主 査 名：大塚 雅之     |
| 設 置 期 間                      | 2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月   |                               |                               |
| 設 置 目 的<br>各年度活動計画<br>(箇条書き) | 2011 年に作成した AIJES 雨水建築ガイドラインを発展させ、数値規準を盛り込んだ AIJES 雨水活用技術規準を作成する。   |                               |                               |
| 委員構成<br>(委員名 (所属))           | 委員公募の有無：有   |                               |                               |
|                              | 神谷 博 (法政大学講師)、屋井裕幸 (雨水貯留浸透技術協会)、村川三郎 (広島大学名誉教授)、小川幸正 (㈱大林組)、大西和也 (㈱タニタハウジングウェア)、岡田誠之 (東北文化学園大学教授)、早坂悦子 (東京・洗剤プロジェクト)、青木一義 (㈱西原衛生工業所技術本部技術部)、佐藤敦子 (a 設計事務所)、笠 真希 (ゲルフト工科大学)、山田岳之 (糺ノ森環境政策研究所)、福岡孝則 (神戸大学大学院特命准教授)、笠井利浩 (福井工業大学准教授)、* 公募委員：森 孝 (㈱三栄水栓製作所) |                               |                               |
| 設置 WG<br>(WG 名：目的)           |   |                               |                               |
| 2013 年度予算                    | 120,000 円   | ホームページ公開の有無：無<br>委員会 HP アドレス： |                               |

| 項 目   | 自己評価  |
|---|---|
| 委員会開催数  | 1 2 回 (年度内計画を含む)  |
| 刊行物<br>(シンポジウム資料等は<br>除く)                     |   |
| 講習会   |   |
| 催し物<br>(シンポジウム・セミナー等)<br>*能力開発支援事業委員会<br>承認企画 | 1. 第 38 回水環境シンポジウム「雨水活用からはじめる水循環系の再生」<br>(2014 年 3 月 1 日開催) 参加者数 67 名<br>(資料名)「雨水活用からはじめる水循環系の再生」 |
| 大会研究集会  |   |
| 対外的意見表明・パ<br>ブリックコメント等                        |   |
| 目標の達成度<br>(当初の活動計画と得ら<br>れた成果との関係)            | 1. 予定通りに委員会を開催しシンポジウムも開催した。   |
| 委員会活動の問題点<br>・課題                              | 1. 予定通り進んでおり問題はない。委員会への委員の出席率もよい。   |

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

\* 表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

\* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

## 2013 年度 小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価)

|  |   |
|--|---|
| <p>総合評価<br/>(4段階評価)</p>                  | <p>B</p>  |
| <p>総合評価に関する<br/>自由記述欄<br/>(理由、特記事項等)</p> | <p>2013 年度目標は雨水活用技術規準のワーキングドラフトを作成することと、シンポジウムを開くことであるが、二つとも予定通り進んでいる。現状ではまだ作業が終わっていないので正確な評価はできないが、現状で 60%程度の進捗であり、最終的に 80%以上は達成できるものと予想する。<br/>そのほかに、雨水ネットワーク全国大会への参画や委員の各種講演会への参加など、対外的な社会活動も実施している。</p> |

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。